

令和6年9月24日
企画部オーガニックシティ推進課
0438-23-8049

「コアマモこんしょうし混抄紙」を使用した名刺を作成

「きさらづ地域循環共生圏」の創造に向けた取組^{※1}の一環として、海藻や海草等によって吸収・固定されるCO2由来の炭素「ブルーカーボン」に関する取組を進めています。

取組の工程において間引いた「コアマモ^{※2}」を有効活用し、炭素固定化をさらに進めるため「混抄紙^{※3}」にする用途開発が進められており、今般、「コアマモ混抄紙」を活用した職員用の「名刺」を作成します。

CO2の吸収効果があるコアマモのバイオマスを紙として固定し、さらに紙を廃棄せずに長期的に使用すれば、CO2の長期貯留につながります。

本件の周知を図るため、記事掲載にご協力の程よろしく申し上げます。

1 経緯等

千葉県水産総合研究センターにより、中里地先にて「海草のコアマモでアサリを守り育て、CO2を吸収させる」実証研究が行われており、海の貧栄養化や食害等によるアサリ漁獲量の減少を背景に「コアマモ」の機能を活かして、水産業の振興とあわせ、地球温暖化対策に役立てようとしています。

また、リントック株式会社^{※4}により、アサリの生態研究・稚貝保護などのために間引きされるコアマモを混抄紙とする用途開発が進められております。

藻場の保全の取組は、漁場環境の改善とブルーカーボンの創出を両立すると考えられるため、今後、ブルーカーボンの考え方を取り入れることにより、藻場保全の取組強化につながることが期待されます。

なお、コアマモ混抄紙は、「ブルークレジット^{※5}」発行証書に使用されており、今般、職員用の名刺を作成いたしますが、名刺以外の活用、又は混抄紙以外の有効活用も含めて、事業者等と連携して取組を推進していきます。

2 参考

※1：きさらづ地域循環共生圏の創造に向けた取組

平成30年に国の「第5次環境基本計画」で提唱された考え方のもと、本市では企業や団体の皆さまと意見交換を重ねて、地域の持続力を高めるため、5つのテーマごとに18の取組を整理しました。

※2：コアマモ

主に浅海域の砂泥地に生息する海草で、海洋生物のすみかとなるため「海のゆりかご」と比喻されるほか、光合成によりCO2を吸収することから、近年、海草藻場がCO2の吸収源として期待されています。東京湾でも分布が拡大しており、東京湾唯一の自然干潟である盤洲干潟にも多く群生しています。

「きさらづ地域循環共生圏」の創造に向けた取組(体系図)	
里山の再生	1 ハンノキ湿原周辺地域の生態系の再生・活用
	2 森林整備の促進
資源循環の促進	3 下水汚泥の堆肥化
	4 衣類の新たな循環サイクルの促進
	5 焼却処理中の有機性廃棄物の資源化
	6 アルミ廃棄物の活用
	7 食害対策としてのクロダイの資源化
	8 循環経済への移行を推進する取組
食・有機農業	9 有機農業の推進
	10 「きさらづ学校給食米」®の活用
	11 有機農産物を活用した商品の開発
再生可能エネルギー	12 脱炭素地域づくりに向けた面的整備
	13 再生可能エネルギーの普及
里海の活用	14 E Vの普及促進に向けた環境整備
	15 盤洲干潟エリアの保全・活用
	16 漁場環境の改善
	17 オーガニックツーリズムの組成
	18 カーボン・クレジット

※3：混抄紙

茶殻や小豆の皮といった本来であれば廃棄される非木材原料を木材パルプに混ぜ合わせて抄いた紙。

※4：リンテック株式会社

主に粘着紙や粘着フィルムの製造・販売を手掛け、平成30年に社内の組織横断的なプロジェクト「SDGs委員会」をきっかけに、ブルーカーボンをテーマとした新たな付加価値を創出する取り組みに着手。

※5：Jブルークレジット

パリ協定の発効に伴い、いわゆるブルーカーボン生態系のCO2吸収源としての役割その他の沿岸域・海洋における気候変動緩和と気候変動適応へ向けた取組を加速すべく、あらたなカーボン・クレジットとしての「Jブルークレジット®」制度が創設、運用されております。

「Jブルークレジット®」は、ジャパンプルーエコノミー技術研究組合〔JBE〕が、独立した第三者委員会による審査・意見を経て、認証・発行・管理する独自のクレジットであり、一般的な国際標準とされる100年間以上の長期にわたって沿岸域・海洋に貯留されるべきCO2の量を客観的方法論に基づき科学的合理的に算定し、これを認証・発行しております。



コアマモ

間引いた
コアマモ



コアマモの乾燥



地下茎で育つアサリ稚貝（成貝含む）

アサリ採集



アサリ稚貝の
囲い網内移植